北海道医歌人会詠草

北広島とファイターズ

北広島　古屋雅三知

黄昏の北広島駅のコンコース　勤め帰りの足は止まりぬ
大画面　我らが街のファイターズ　市民の眼　皆釘付けとなり
満塁のチャンスに一本出ぬままに　溜息ありて群れは散り行く
「ただ今…」に返る言葉は先程の試合の進行　勝負の行方
以前なら関心も無き野球なれど　玄人跣の妻の解説

自転車で風

函館　水関　清

「お迎えは　ばあばがいいな」自転車で　気持ちいい風歌もうたえる
水辺にて一片の闇　ゆらゆらと　凝らす目に舞ふナガサキアゲハ
ゆらゆらと　浴衣の帯を揺らす風　袖の金魚と露草模様
リクルートスーツの娘等ハイタッチ　ひとりは赤毛
児と相撲　ことことことと鼓動聴く　俵で踏ん張り防ぐ寄り切り

命どう宝？

士別　竹内　幹夫

高校生は命ならざるや――無届の船　保険もなくて詫ぶる者なし
美ら海を見たしと言ひて旅に出で帰らぬものはただ海の底
波高き沖に出でしを誰が許す　かへらぬ舟の影のみ残り
沖縄の桜は散りて久しかど胸のうちには春とどまれり
ひそかなる光ひとすぢ海にあり　しづかにあらむ魂のゆくへは

ふるさと紀行

滝川　村田　英俊

遠足で結びを分けし親友は八十の今も農に勤しむ
しじみ貝十三湖の砂を吐き出してボウルの中で開き直ってる
親友と会えば昔にまた戻る授業のようには仕事さぼれず
我が席に座りおる奴にもの申す印籠なる指定券を翳し
方舟に載せるが如く札幌で共に暮らすべき本を選べり

ヒトリシヅカ

札幌　浜島　泉

医師会の短歌詠草を読み申すと　友が賀状に寄せ給ひけり
問いかけもひとたびにては伝はらず　表現を換へ繰り返してみつ
玄関は埋もれ開かぬ　雪掻きも三度疲れて夕月渡る
雪と風予報通りに吹き溜まり　繰り返し除け踏みて固めつ
ゆふべ雨やま雪化粧　梅が散りヒトリシヅカが開くと言ふに

短き夏

釧路　児玉　昌彦

冷え冷えと海霧迫り来て湿原の花はふたたび咲き遅れむとす
海よりの霧は川筋さかのぼり橋をすっぽり影もおぼろに
うぐいすと蝉の声満つ丘の上　短き夏を生き急ぐごと
ふかふかの森の小道を歩みつつ　けものの臭いに一瞬色めく
急流の滝さかのぼるクライミング　命を賭けし友偲ぶ夏